

---

# 魔界王

愁焰 飛翠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔界王

### 【Zコード】

Z2958A

### 【作者名】

愁焰 飛翠

### 【あらすじ】

魔界。そこは11人の霸王によつて統一されていた。ノアの洪水により霸王の力が人間界に落ちてしまった。

小さな小さな星が集まり、一つの大きな大きな群れを作り、朧月夜の空を漣のように音を起てていて。薰風が寒さと混じり、次の季節の始まりを感じさせた。数枚の花びらがヒラヒラと風に流され舞い落ちる。

私達が生きている現代にも、古代にも中世にも、この景色はずつと続いていたのだろう。

四季折々に形を変え、人々を昼夜問わず楽しませていた。

闇夜を照らす照明と月夜。

笛の美しい調べと犬の遠吠えが静かな夜に響くその音は、独特の世界を作り出していた。

「・・・静かだな。」

もう、深夜の2時を過ぎていた。笛も犬も、もう聞こえない。涅槃の世界で修介は瞑想にふけった。夜風が頬を撫でる。いつまでもこれなら世界も平和だろうな・・・。

「・・・誰だ？」

小さな声がした。

何人かの声が聞こえる。

「早く見つけなければいけないのだ。隅々まで捜せ！」

・・・何を探しているのだろうか。

「見つけたつ！ルシファー様と同じ波動の人間。」

「貴様は・・・？」

「虞汰様、発見しました。」

「よくやつた！春風。この人間を魔界に連れて行くぞ！」

春風が修介の手を掴む。

とても女とは思えない力だった。

「お帰りなさいませ、エン様、ゲーテ様。その人間は？」

「ルシファーの新しい体だ。」

「そうですか、若いお方で。」

修介はその後、春風のすごい力により気絶していたのだ。

「エルラ、この人を変換台に乗せなさい。」

「ゲーテ様、ルシファー様をお連れしますか？」

「お願いします。」

「分かりました。」

修介は目を覚ました。

辺りを見渡し、自分が入っているガラスケースを叩いた。

「おや、元気がいいな。何歳だ？エン？」

「人間界の18歳。魔界では180歳です。」

「人間、この方がお前だ。」

「出せ！ここから出せよ！」

あれからずつと叩いている。

「可哀相じや。」

ガラスケースの中にルシファーが入った。その瞬間、背筋が凍つた  
ような気がした。

「データ転送開始。」

修介の手足は謎の電気により感覚が無くなつた。

ルシファーの入っているガラスケースが緑に染まつてゐる。

そして、ルシファーの頭と修介の頭を繋いでいる管も緑に染まつて  
いた。

「うわああああ！」

修介のガラスケースが煙に包まれる。修介はずつと叫び声をあげた  
ままだつた。

しばらくして叫び声がしなくなつた。煙がなくなりガラスケース

が開けられた。

ルシファーが出て來た。

「いかがですか、180歳の力は?」

ルシファーはニヤリと笑つた。

「最高じゃ、エン。お前のおかげで維持できた事に礼をしよう。ゲー  
ーテ、お前にもじゃ。」

「アルよ、こいつらをわしの親衛隊に入れるよいな。」

エンヒゲー テは喜んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2958a/>

---

魔界王

2010年10月28日05時09分発行